

EA21 環境活動レポート

2023年度版

《2023年2月～2024年1月》



株式会社 石崎製作所

発行日：2024年3月25日

作成：野上英明・菊田源博



株式
会社

石崎製作所

ISHIZAKISEISAKUSHO

I 事業活動の概要

事業所名： 株式会社 石崎製作所

代表取締役： 石崎 一徳

所在地： 本社
東京都台東区今戸1丁目5番19号
TEL03-3871-1861 FAX03-3874-8620

環境管理責任者： 野上 英明

連絡先： TEL:03-3871-1861 FAX:03-3874-8620
e-mail:nogami@ishizaki-ss.com

環境事務局： 菊田 源博

事業概要： 金属・樹脂を使用した建築金物関連部品、
住宅設備関連部品、電気器具関連部品等の製造

事業規模： 資本金 1,000万円

社員数 29名

事業所数:2カ所

本社
東京都台東区今戸1丁目5番19号
TEL03-3871-1861 FAX03-3874-8620

茨城工場
茨城県小美玉市部室1199-12
TEL0299-48-0273 FAX0299-48-0388

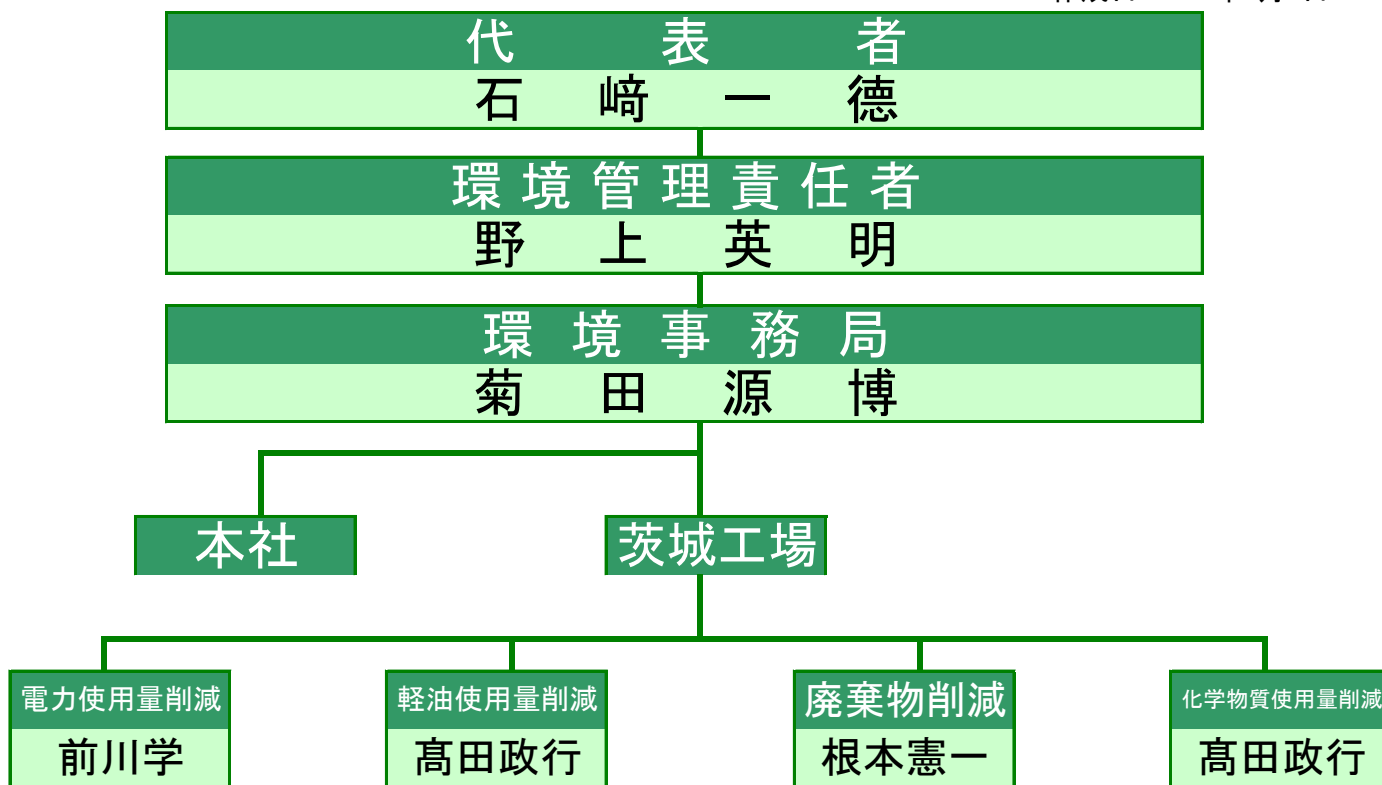
対象範囲:全組織、全事業所

認証登録日:2014年3月25日

認証登録番号:0009981

株式会社石崎製作所 環境経営組織図

作成日: 2023年2月1日



代表者:	基本方針の策定、見直し及び全従業員への周知 効果的な実施体制を構築する 環境管理組織の指名 代表者による全体の取り組みの評価と見直し 課題とチャンス明確化 環境活動レポートの承認
環境管理責任者:	EA21の統括、代表者への報告。EA21環境会議実施、環境活動レポートの作成。
環境事務局:	環境管理責任者の補助。 EA21の維持、管理、データ集計。
電力使用量削減担当者:	削減の為の方法の検討。
軽油使用量削減担当者:	軽油使用量の集計、報告。削減の為の方法の検討。
廃棄物削減担当者:	削減の為の方法の検討。
化学物質使用削減担当者:	化学物質使用量の集計、報告。削減の為の方法の検討。
全従業員:	環境経営計画達成の為に必要な取り組みを実施する



Ⅱ 環境保全方針

環境保全方針

《 基本理念 》

(株)石崎製作所は事業活動が地域及び次世代の環境に及ぼす影響を考え、環境にやさしい製品作りに重点を置き、得意先様ひいては社会に貢献することを目標とし、環境保全に努めるものとする。

《 基本方針 》

1.次の環境保全の重要項目に対して環境目標を設定し取組み、環境経営の継続的改善を行い必要があれば見直しを行います。

- ① 二酸化炭素排出量削減(電力、燃料消費の削減)
- ② 廃棄物の排出抑制と適正処理(一般廃棄物及び産業廃棄物排出量の削減)
- ③ 化学物質使用量の削減
- ④ 水使用量の削減
- ⑤ 環境に配慮された製品の提案と製造
- ⑥ 社員の技術力向上と5S活動による社員の意識改善

2、環境関連の法規則、条例及び当社が同意するその他の要求事項を遵守します。

3、この環境保全方針を全従業員に周知し環境教育活動を推進します。

改訂:2019年4月5日

株式会社 石崎製作所
代表取締役 石崎一徳



株式会社

石崎製作所

ISHIZAKISEISAKUSHO

Ⅲ 環境目標と実績

①目標達成状況

※基準年は2022年2月～2023年1月

《 全 社 》

取り組み項目	基準年(2022年度実績)	2023年度目標	2023年度実績
CO2排出量削減 ①+② (CO2) (kg-CO2)	42,841	42,413	37,914

《 茨城工場 》

取り組み項目	基準年(2022年度実績)	2023年度目標	2023年度実績	達成率	評価
電力消費量の削減(kWh)	70,194	70,194	57,053	123.0%	○
軽油燃費の向上(km/ℓ)	9.1	9.1	9.0	99.0%	△
一般廃棄物の削減(kg)	1,870kg	1,851kg	2,130kg	86.9%	×
化学物質不使用の継続 (トリクロエチレン)	0	0	0	100.0%	○
水使用量削減(m ³)	243	243	173	140.5%	○
環境に配慮された製 品の提案と製造	1件	1件	1件	100.0%	○
社員の技術力向上と5S活動	12件/年	12件/年	12件/年	100.0%	○

②中・長期目標

※基準年は2023年2月～2024年1月

取り組み項目	2023年度(基準年度)	2024年度目標	2025年度目標	2026年度目標
CO2排出量削減 ①+② (CO2) (kg-CO2)	37,914	前年度数値1%減 37,535	前年度数値の維持 37,535	前年度数値の維持 37,535
①電力消費量の削減(kWh) (CO2) (kg-CO2)	57,053 26,074	前年度数値の維持	前年度数値の維持	前年度数値の維持
②化石燃料使用量の削減(ℓ) (CO2) (kg-CO2)	4,772 11,841	前年度数値3%減 11,723	前年度数値の維持 11,723	前年度数値の維持 11,723
水使用量の削減(m ³)	173	前年度数値の維持	前年度数値の維持	前年度数値の維持
一般廃棄物の削減 (kg)	2,130kg	2023年度から1% 2109(kg)	2023年度から2% 2088(kg)	2023年度から3% 2067(kg)
化学物質不使用の継続 (トリクロエチレン)	不使用	不使用	不使用	不使用
環境配慮製品の提案(件)	12件/年	12件/年	12件/年	12件/年
社員の技術力向上と5S活動	1回/月(12回/年)	1回/月(12回/年)	1回/月(12回/年)	1回/月(12回/年)

※電気の排出係数は東京電力エナジーパートナー(株):0.457Kg-CO2/kwhでした。

※環境目標、活動計画経営環境の変化に応じて随時改定可能とする

※本社の電気、水、ガス、廃棄物処理は賃料に含まれています。



株式
会社

石崎製作所

ISHIZAKISEISAKUSHO

IV 主要な環境活動計画の内容

①電力使用量削減

- 現場の休憩時間・昼休みの消灯をする。
- 空調設備のフィルターを定期的に清掃する。
- 空調設備の過剰使用をさけ、適切な温度を保つ。
- 作業を離れる際は電気設備のON・OFFをこまめに行う。

②ガソリン・軽油使用量の削減

- 燃料給油・走行距離数のチェック表を作成・記入する。
- 急発進急加速の禁止を励行する。
- オイル交換等、定期的な車両の整備を行う。
- 効率的な配送ルートを実施する。
- エコ運転を心掛ける。

③環境配慮製品の提案

- クロムフリー材の購入量を増やす。
- クロムフリー材への代替を交渉する。

④化学物質不使用の継続

- プレスオイルの変更(揮発性の高いオイルへの変更)
- トリクレンの不使用を継続する

⑤一般廃棄物の削減

- ミスプリント等の裏面利用。
- 家庭ごみを持ち帰る。
- 弁当推奨活動。
- ポスター等でゴミ削減を呼び掛ける。

⑥水使用量の削減

- 手洗い・食器等を洗う時に水を流したままにしない。
- 蛇口を最後まで締める

⑦廃ダンボールのリサイクル化

- リサイクル業者に引き取りを委託する。



株式
会社

石崎製作所

ISHIZAKISEISAKUSHO

V 環境活動の取組結果の評価・次年度取組内容

- ① 電力量の削減
今年度は、2月に工場内をLEDライトに変更したことで、去年度より大幅に18.8%も削減することが出来ました。また、電力削減の取り組みが習慣になり従業員の意識が変わったことで削減に繋がったと思います。次年度も節電を意識するよう適度に周知します。
- ② 軽油燃費の向上
前年度と同じ燃費の9.1km/lで維持できました。
次年度もエコな運転と適切なエアコンの使用をしていきます。
- ③ 環境配慮製品
「顧客の新規開拓」という指示に基づき、3月に新規顧客を得ることが出来ました。目標の年間12件も達成することもできましたので、次年度も継続してスポット案件、新規案件での材質提案をしていきます。
- ④ 化学物質使用の量削減
化学物質は継続して不使用を管理できました。
次年度も引き続き不使用を継続します。
- ⑤ 一般ごみの削減
弁当持参の推進や家庭ごみの持ち帰りを推奨したが、去年度よりも13.9%増加しました。新規商品によるゴミの増加となりましたが、次年度も引き続き削減する取り組みをしていきます。
- ⑥ 水道使用量の削減
水使用量については基準年から 28.9%の削減が出来ました。
夏場は打ち水を中止にして、窓に直射日光を遮るシートを貼るようにしたため、水の使用量を削減できました。
次年度は本年度の水使用量維持を目標に計画を立てていきます。
- ⑦ 廃段ボールのリサイクル化
アクリル案件の減少に伴い、前年度よりも排出量が58%減りました。
次年度は、通い箱について、外装が悪くなったものは交換、又は破棄するように指示しました。



株式
会社

石崎製作所

ISHIZAKISEISAKUSHO

VI 環境関連法等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

- ◎茨城県生活環境の保全に関する条例
- ◎騒音規制法
- ◎振動規制法
- ◎小美玉市廃棄物の減量及び処理に関する条例
- ◎フロン排出抑制法

①適用される主な環境関連法等の遵守状況の確認及び評価
環境管理責任者により問題ないことを確認した。

②違反・訴訟等
2023年度において環境関連の違反、訴訟等は過去3年間ありません。
なお、関係当局よりの違反等の指摘は、過去ありません。

VII 代表者による全体評価と見直しの結果

2023年度は環境活動計画の『電力量の削減』、『燃費向上』、『環境配慮製品』、『化学物質使用量削減』、『一般ごみの削減』、『水道使用量の削減』、『ダンボールのリサイクル化』の計7項目中のうち『電力量の削減』、『環境配慮製品』、『化学物質使用量削減』、『水道使用量の削減』、『ダンボールのリサイクル化』の5項目が目標達成となりました。

飛沫感染防止関連製品の特需売上が減少しましたが近年の材料費高騰による通常製品の価格改定が実行できたので売上は昨年比で103.7%UPしました。

電力使用量が大幅に削減できたのは工場内の電気のLED化です。

電力使用量については前年維持で計画していますが売上が増加した場合、増加率以上に増加しない様に取り組みを継続していきます。

自動車燃料は燃費率を継続させるように取り組んできましたが昨年同様9.0km/ℓと目標に対して99.0%でほぼ前年維持で着地しました。取り組みの効果が出ています。営業に出る機会も増えてきましたが維持していけるように取り組んでいきます。

環境配慮製品の提案は量産製品に対して少しずつですが切り替えが進んでいます。

昨年指示した新規開拓については1社新規開拓が出来たので今後、取引点数を増やせるように取り組んでほしいです。

化学物質使用量の削減については不使用を継続できています。

一般廃棄物は13.9%増加してしまいました。

弁当持参やごみの持ち帰り運動を行い排出量を削減していきます。

産業廃棄物の処理については本年度はゼロでした。

水使用量については昨年から28.9%減少することが出来ました。

全従業員のこまめな節水が身を結んだと思います。

全員参加の活動として『5S活動』『安全衛生活動』を継続しています。

しかしながら作業のマンネリ化が否めず同じことの繰り返しが目立つようになってきました。

来年度は今までの取り組みのアップデートや新規の取り組み事項を自発的に考え動ける様に指示を活動を活性化していきます。

以上